

本庄

基本コース 8.5km

JR本庄駅…本庄仲町郵便局・旧諸井家住宅…愛宕神社…開善寺…小笠原信嶺夫妻の墓…市立歴史民俗資料館…旧本庄商業銀行煉瓦倉庫…安養院…本庄普寛霊場…阿夫利天神社…佛母寺…金鑽神社…長松寺…唐鈴神社…ふるさとフラワerpark…若泉運動公園…賀美橋…寺坂橋…本庄城址…城山稻荷神社…八坂神社…円心寺…大正院…JR本庄駅

神社を巡る観光散歩にでかけませんか



①本庄仲町郵便局
木造2階建、一部煉瓦造りタイル張りの建物は、昭和9年(1934)に、秩父セメントの創業者である諸井恒平によって建てられたもので、当所は1階を郵便業務用、2階は電信電話業務用として使用されていた。国登録有形文化財。



②旧諸井家住宅
東諸井家は本庄宿で繭の仲買商として活躍し、町の発展に貢献。明治12年(1879)に諸井泉衛が横浜の洋館を手本に建設。秩父セメント創始者の諸井恒平の生家。国登録有形文化財。



④小笠原信嶺夫妻の墓
小笠原信嶺は信濃松尾城主の小笠原信貴の長男として生まれ、武田・織田・徳川に仕え、天正18年(1590)に徳川家康が関東に入府した際に、本庄藩1万石を与えられた。信嶺は、以前の本庄氏の城を廃して新たに本庄城を築き、城下町(本庄宿)を整備した。慶長3年(1598)江戸にて死去。夫人は、武田信玄の兄、武田逍遙軒信賢の娘。市有形文化財。



③開善寺
臨済宗。天正19年(1591)本庄城主小笠原信嶺が夫人(武田逍遙軒信賢の娘)の兄である甲斐国永岳寺の救山宗温禪和尚を迎え、開基した。寺号は故郷の信州伊那の菩提寺である量秀山開善寺と同名。



⑤本市市立歴史民俗資料館
市内から発掘された考古資料、中山道本庄宿の田村本陣文書などが展示。建物は明治16年(1883)に建てられた旧本庄警察署で国登録有形文化財。敷地内に移築される田村本陣門は市指定有形文化財。午前9時~午後4時30分。月曜・月末・祝日(11月3日は開館)・年末年始休館。



⑥旧本庄商業銀行煉瓦倉庫
明治中期、全国でも有数の繭市場であった本庄では、明治27年(1894)に繭金融のために地域の有力者によって本庄商業銀行が設立された。この倉庫は、地元商人が買い付けた大量の生繭の保管や担保の繭や絹糸などを保管した。国登録有形文化財。



⑦安養院
文明7年(1475)に室町時代の武將で東本庄館を築いた本庄信明の開基。伽藍3棟は市指定有形文化財。小倉家墓碑群は市指定史跡。



⑧本庄普寛霊場
秩父大滝出身の木曾御嶽山開闢の祖、御嶽講・御嶽教の開祖、本明院普寛が当地で亡くなり、当初は安養院に埋葬されたが、明治3年(1871)に全国の信者の寄進によって普寛堂が建設され、普寛の遺骨を砕いて木像に黒漆で塗り固めた御霊像を祀る。普寛の墓所4カ所の一つ。大正11年(1922)に現在地へ移転。墓は市有形文化財。



⑨佛母寺
江戸時代までは、金鑽神社の別当を真言宗金鑽山威徳院白蓮寺が務めていた。威徳院は、京都仁和寺直末で準別格本山の大刹で、かつての本堂は金鑽神社社務所の東側にあった。明治維新に至り、威徳院は神仏分離に伴い廃寺となったが、明治18年に佛母寺と改称して現在地に再興された。





⑩長松寺

真言宗唐鈴山薬師院。本尊は十一面観音菩薩。武蔵丹党の小島氏の居館址と伝えられ、周囲に土塁や空堀などの遺構が残る。



⑫賀美橋

大正15年(1926)製。高欄に白タイル貼りの連続アーチ、親柱に三角ペディメントを表すなど装飾的に凝った造り。国登録有形文化財。



⑭本庄城址

天正18年(1590)に徳川家康が関東に入府した際、小笠原信嶺が本庄領1万石を与えられた。この東南側には、同年まで、本庄宮内少輔実忠が弘治2年(1556年)に築いた本庄城があったが、豊田秀吉による小田原北条攻めで落城していたため、現在の城山稲荷神社辺りから西側の市役所付近にかけた本庄台地の起伏を利用して、新たに本庄城を築いた。その後、家督を継いだ

信之が本庄藩初代藩主となったが、慶長17年(1612)に下総国古河藩に転封となり、それに伴い本庄藩は廃藩、本庄城は廃城となった。



⑮円心寺

浄土宗。要行山先教院。本尊阿彌陀如来。天正年中(1573~92)の建立で、慶長8年(1603)に本庄藩主の小笠原信之が、三河国から帰依僧円心房を招いた。天明年中(1781~89)に建てられた山門は、市指定有形文化財。



⑯大正院(だいしょういん)

真言宗智山派。天正11年(1583)に権律師正算により開山。当初は薬王山瑠璃坊と号していました。本堂前の不動堂に納められている、慶応3年(1867)に本庄宿の刀匠・長谷部若狭守国治作の不動額は、市指定有形文化財。



JR本庄駅



⑪ふるさとフラワーパーク
四季折々の花を楽しめる公園。



⑬寺坂橋

明治22年(1889)製。関東では数少ない石造単アーチ橋。国登録有形文化財。



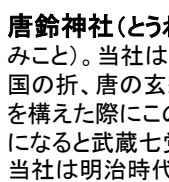
愛宕神社(あたごじんじや) ご祭神は迦具土命(かぐつちのみこと)。天正19年(1591)に本庄城主小笠原信嶺が勧請したと伝え、現在も火防の神として篤い信仰を受けている。同年、信嶺によって開基された開善寺の旧境内にあたるため、寺の鎮護のために祀られたと思われるが、本庄城の裏鬼門にもあたるので、本庄城の鬼門除けに祀られたとも考えられる。社殿は「愛宕山」と呼ばれる古墳上に祀られており、現在は住宅に囲まれているが、かつて、神社の周囲は水の湧く沼であったという。ご神木の石段脇にそびえる大きな二本立ちのケヤキは、地域のシンボルとなっており、市指定天然記念物。



阿夫利天神社(あふりてんじんじや) ご祭神は大山祇命(おおやまつみのみこと)・大雷命(おおいかづちのみこと)・高靈命(たかおかのみこと)・菅原道真公(すがわらみちざねこう)・天手長男命(あめのたながのおのみこと)。当社は大正2年(1913)に、当初に鎮座していた阿夫利神社に、当時は慈恩寺境内(現歴史民俗資料館の場所)にあった天神社が、町役場建設のため合祀され、社名が改称された。阿夫利神社は寿永年間(1182~85)に本庄太郎家長が信仰していた相模国大山の石尊大権現を勧請したもので、周辺の村からは水の神として信仰され、干ばつの時には水を頂きに訪れたという。また、天神社は天正2年(1574)に本庄宮内少輔実忠が城の鎮守として奉斎。



金鑽神社(かなざなじんじや) ご祭神は天照大御神(あまてらすおおみかみ)・素戔嗚尊(すさのおのみこと)・日本武尊(やまとたけるのみこと)。当社の創建は欽明天皇の2年(541)と伝え、日本武尊が東征の際に駐軍した古跡であると伝える。鎌倉時代には武蔵七党の児玉党本庄氏が崇敬し、本庄宮内少輔実忠が弘治2年(1556)に本庄城を築いた際に社殿を改修、神田を寄進し、本庄領20ヶ町村の総鎮守とした。天正18年(1590)に城主となった小笠原信嶺も当社を崇敬し、その孫の忠貴も、下総国関宿城主であった寛政16年(1639)に、社殿を改築した。ご神木となっている、クスノキ(県天然記念物)・モミ・カヤ(市文化財)は、忠貴がこの時植樹したものである。文化11年(1814)の建立の大門(市指定文化財)は、かつての別当威徳院の総門。また、大鳥居の社号額は、当社を崇敬した老中松平定信が奉献したもの。11月2・3日の例大祭は「本庄まつり」として知られ、神輿と10基の山車が中山道を巡幸する。



唐鈴神社(とうれいじんじや) ご祭神は素戔嗚命(すさのおのみこと)・倉稲魂命(うかのみたまのみこと)。当社は「きつらき明神」、「からすず様」とも呼ばれ、遣唐使であった大伴宿根古麻呂が帰国の折、唐の玄宗皇帝より渡海安全のため金鈴を授けられた。その後、息子の良麻呂が当地に館を構えた際にこの鈴を奉斎したと伝える。当社の東側の隣接地が古麻呂の館跡とされ、鎌倉時代になると武蔵七党の丹党小島氏の館となった。さらに江戸時代には、館の跡に長松寺が建てられ、当社は明治時代になるまで長松寺が管理していた。200mも続く参道は銀杏の並木となっている。



城山稲荷神社(しろやまなりじんじや) ご祭神は宇迦之御魂命(うかのみたまのみこと)。弘治2年(1556)、本庄宮内少輔実忠が本庄城を築いた際、城の守護神として勧請した。築城当時、実忠によって植えられたと伝わる社殿前のご神木の大きなケヤキは県天然記念物。その後、天正18年(1590)に本庄城は落城し、新たに城主となった小笠原信嶺が当社西側に本庄城を改めて築き、併せて当社の社殿を再興し、さらに、慶長3年(1598)には、赤城山麓から100本もの松を取り寄せて境内に植樹させたという。しかし、慶長17年(1612)に小笠原家が下総国古河に転封となり、城は廃城となったが、その後は本庄宿の人々から商売繁盛・養蚕倍盛の神として信仰された。



八坂神社(やさかじんじや) ご祭神は健甕須佐之男命(たけはやすさのおのみこと)。当社は江戸時代までは「牛頭天王社(ごずてんのうじゃ)」または「津島様」と呼ばれていた。弘治2年(1556)、本庄宮内少輔実忠が本庄城を築いた際、城下町の疫病除けの神として勧請したという。本庄城廃城後、城下町は中山道一の宿場として発展し、明暦2年(1656)には、本庄宿の人々によって本殿が建立された。7月第3土日には祇園祭がおこなわれ、両日には、台町の獅子舞(県指定無形文化財)が境内で奉納されるほか、市街地では、「本庄祇園まつり」として、土曜日には子供神輿パレード、日曜日には大人の神輿パレードがあり、多くの人で賑わう。